

2016年度（平成28年度）事業活動報告書

法人の名称 特定非営利活動法人グリーンママ

1 事業の成果

（1）育児支援に関する事業

「みどりっこ親子の居場所はなまる」（以下はなまる）「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」（以下いっぽ）の運営、『みどりっこカレンダー』『みどりっこひろば』『みどり子育て応援ガイドブック』をとおして子育てに関する情報の提供、緑スポーツセンター定期教室を中心として一時託児等を行い一定の成果を上げた。

はなまるは、昨年度のひろば移転後より力を入れている利用者増に向けた取り組みを行った。初めての方が利用しやすいプログラムの設定や、利用者ボランティアから声をかけてもらうなどして、居心地のよいひろばになるよう工夫している。27年度から運営・進行業務を緑区より受託して行っている「赤ちゃん教室・中山会場」でも、はなまるの周知を行っている。また、ひろばでの一時預かりの利用が増え、自分の時間を持つ母親が増えた。

いっぽは、3期目の運営期間が始まった。初年度として重点目標に「だれもが利用しやすいひろばに」と「子育て支援ネットワークの強化」を掲げた。「だれもが利用しやすいひろば」になるようレイアウトの変更をおこなった。ひろば全体が落ち着いた雰囲気になり、遊びに集中できるスペースもできたので、利用者の年齢の幅が広がった。年齢が上がっても継続して利用する人が増えており、利用者数の増加につながっている。「支援ネットワークの強化」では、より密度の濃い関係性が築けるように地区ごとに少人数の連絡会を開催し、参加者同士の地域情報交換と、課題の共有ができた。

28年度より本格的に始まった利用者支援事業においては、区内の支援の場に出向いたり、会議に出席したりして事業の周知に力を入れた。顔の見える関係性が築けてきている。ひろばで継続した対応をするスタッフが増えたため、今まで行っていたひろば相談の幅をひろげることができた。

また、3月に開所10周年を迎え、記念事業等を行った。

「地域に向けた子育て支援の促進」とし、新たな受託事業を行った。子育てサークル・子育て支援サークルへのヒアリングやアンケートを行い、サークルへの活動支援充実につなげたり、子育て家庭を見守る商店を開拓する働きかけを行ったりした。

（2）障がいのある子どもと親への支援事業

いっぽにて「気になる子のサロン」の開催、障がい理解講座の開催を行った。

（3）児童及び青少年の健全育成にかかる事業

いっぽにて中学生・大学生のボランティアの受入れを行い、これから親になる学生が乳幼児とふれあえる機会を提供した。

2 事業内容

（1）育児支援に関する事業

①「みどりっこ親子の居場所はなまる」の運営

実施日時	月～金曜日 午前9時30分～午後4時30分 土曜日（月1回）午前9時30分～午後2時30分
実施場所	みどりっこ親子の居場所はなまる
従事者	2人/1日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者（おもに0～3歳児）
支出額	8,419,083円
事業実績	<ひろば> 年間利用者数（大人・子ども）：4,310人（4,482人） （）内数値は 前年度実績 一日当たりの平均利用者数：17.5人（18.8人） 新規登録組数：254組（260組） <一時預かり> のべ預かり児童数：223人（142人） 総利用時間数：584.5時間（466.5時間）

【1年間の報告】

- ・ひろば利用者から親子ボランティアを募り、まだ利用回数の少ない利用者へのひろばでの声かけ、プログラムにおいて先輩利用者としての参加、日頃のひろばでの手遊びや読み聞かせなど、活動の幅も広げた。
- ・初めて来所するきっかけとなるようなプログラム「ようこそはなまるへ」、毎月のテーマを基に皆で話しをする「おしゃべりタイム」を28年度より開催した。既存の様々なプログラムの中でも、母親の不安な気持ちや頑張っているところなどを気軽に自然に話しをすることができるが、更に話しをする機会が増えたことにより、情報交換やストレス軽減の場も広がった。
- ・夏季のプログラムとして、ベランダで水あそびを開始した。初めて水あそびをするきっかけになり、また、母親の労力の軽減にもなり、好評を得ている。衛生面には準備段階から気をつけているが、オムツの着用など利用者にも注意を促している。
- ・マタニティ向けのプログラムでは、ベビーマッサージの見学を組み込み、また、先輩ママとも話しをすることで出産後の準備や不安の軽減に繋がっている。出産後もひろばを利用するきっかけとなっている。
- ・子育て支援連絡会に参加し、地域の他の支援者とつながりを持つことができた。

②「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」の運営

- ア. 「親子の居場所事業」「子育て相談事業」「情報収集・提供事業」「ネットワーク事業」「人材育成・活動支援事業」「利用者支援事業」

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	7人/1日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	30,731,344円
事業実績	年間利用者数（大人・子ども）：21,020人（19,791人） 一日当たりの平均利用者数：86.9人（81.7人）
（ ）内数値は前年度実績	累計登録者数（子ども）：5,105人（5,325人） 28年度新規登録者数（子ども）：865人（868人） 新規ボランティア登録25人（30人）うち利用者6人（16人）

【1年間の報告】

- ・今年度の重点目標「だれもが利用しやすいひろば」になるようひろばのレイアウトの工夫と共に、プログラムの工夫もおこなった。0才からの継続した利用をうながすため1歳児向けのプログラム「ひろば de 1歳児」を5月から始めた。友だち作りの場としても機能している。
- ・スタッフ全員が手分けして地域の支援の場を訪問し、情報収集を行った。実際に足を運ぶことで理解が深まった。報告をまとめ、ひろばで提供した。今後はHPでも提供できるよう情報を整える。
- ・今年度取り組んでいた「おたすけ mama's」*の活動については見直しを行いたい。名札をつけての活動ではなく、日常的にひろばを利用するなかで、お互いさまの雰囲気が出るようにしていく。いっぽが望んでいるひろばの姿をていねいに利用者に伝えて、利用者同士の声の掛け合いが増えるようにしていきたい。
- ・10周年記念公演「不思議な箱の鍵」を緑公会堂にて開催した。当日会場では10年の歩みや利用者からの声をボードに掲示し、いっぽの活動への理解を深めた。

*『おたすけ Mama's』：ひろばを利用する保護者によるボランティア活動

イ.「横浜子育てサポートシステム」緑区支部運営

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	3人/1日
対象	横浜市在住の0歳から小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	8,477,367円
事業実績	会員数：利用会員612人（587人） 提供両方会員248人（262人） 28年度入会者数：利用会員168人（158人） 提供両方会員20人（22人）
（ ）内数値は前年度実績	コーディネート件数：165件（141件） 実働会員数：利用会員のべ957人（899人） 提供・両方会員のべ805人（753人）

事業実績 ()内数値は 前年度実績	活動件数：6,048件(5,137件) 入会説明会：37回実施 210人参加(うち利用会員178人・提供・両方会員32人)(30回 178人) 個別説明：89人参加(利用会員78人 提供・両方会員11人)(87人) フォローアップ研修：1/31 11人参加 交流会：5/18 8人参加 7/15 6人参加 10/12 14人参加 10/21 14名参加 子育てサポート通信：3回発行 「いっぽ保育隊」* ³ ：活動件数37件(40件) のべ活動者134人(140人) 保育子ども250人(337人)
--------------------------	--

【1年間の報告】

- ・お試し預かり付の地区別交流会やリフレッシュ講座を行い、利用会員にサポートの預かりを体験してもらった。利用会員同士の交流をはかると共に、近くの提供会員と知り合うことでサポート利用をより身近に感じてもらい利用につなげることが出来た。
- ・提供会員交流会、おしゃべりタイム、手遊び講習会等を開催し、提供会員との交流を深める機会を増やし、活動の様子を聞くと共に活動に役立つ情報を提供し活動の継続を促すことが出来た。
- ・つどいの広場や地域のイベント(マザプラスまつり)での説明会を行うことで、その地域でのサポートの周知につながり会員が増やすことが出来た。

③子育てに関する情報の発信・提供

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	4人
対象	緑区および近隣の未就学児とその保護者
支出額	1,479,195円
事業実績	『みどりっ子カレンダー』:毎月1000部発行、掲載園24園、配布先44か所 『みどりっこひろば』:随時情報更新 『みどりっこひろば』メールマガジン:毎月発行 431人登録(前年度389人) 『みどり子育て応援ガイドブック』改訂版編集

【1年間の報告】

- ・区内の保育施設の地域開放事業を紹介する『みどりっ子カレンダー』では、掲載園に幼稚園も加わり、新たなつながりもできた。
- ・インターネットで区内の子育て情報を提供している『みどりっこひろば』では、毎月地区別のメルマガを発行。
- ・緑区が発行する『みどり子育て応援ガイドブック』の改訂版を編集。表紙のイラストはいっぽの利用者が担当した。

④集団出張保育

実施日時	通年
実施場所	緑スポーツセンターほか
従事者	登録スタッフ 23人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支出額	349,421円
事業実績	定期託児：42回実施、保育した子どものべ94人、スタッフのべ93人 (前年度24回 保育子どものべ50人 スタッフのべ49人) 出張保育：9回実施、保育した子どものべ31人、スタッフのべ31人 (前年度7回 保育子どものべ33人 スタッフのべ31人) お話し会：コスモスフェスタ出演

【1年間の報告】

- ・「緑スポーツセンター」の指定管理者が横浜市体育協会に変わり、年度の初めに担当者と打ち合わせを行った。

- ・新規で「横浜マザーズオーケストラ」の演奏会時の出演者の保育を受けた。
- ・保育スタッフ向けの研修としては、1/31（火）に「手遊び講習会」を子育てサポートシステムフォローアップ研修と合同開催し、登録スタッフ4名が参加した。

⑤地域に向けた子育て支援の促進事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか
従事者	5人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども、
支出額	257,422円

【1年間の報告】

- ・緑区からの受託事業、「子育て支援活動事業に係る調査」として、子育てサークルへのヒアリング（10団体）と、サークル活動に関するアンケート調査（404件回収）を行った。ヒアリングとアンケートの結果を、29年度のサークル支援の充実につなげた。
- ・「子育て家庭応援事業（ハマハグ）の地域における広報・周知」業務を横浜市から受託した。ハマハグ協力店舗の新規開拓（協力依頼46件うち登録23件）と、ハマハグに関するアンケート調査（149件回収）を行い、事業を周知し、子育て家庭を見守る地域づくりをすすめた。
- ・地域の連絡会等に参加し、区内で子育て支援を行う法人として蓄積した専門性をもとに、地域の子育て力を上げるための提言や、子育て家庭の現状を伝え、理解をすすめている。また、様々なジャンルの他団体との連携を図り、法人が行うそれぞれの事業をより充実したものにすることにつなげている。

<参加している緑区内の委員会・団体等>

- 「緑区要保護児童対策地域協議会」いっぽ、はなまるともに参加
- 「緑区防災ネットワーク運営委員会」（松岡美子）
- 「緑区乳児期の発達支援に関わる機関連絡会」（松岡美子）
- 「十日市場中学校地域交流事業実行委員会」世話人（松岡美子）
- 「横浜市バリアフリー検討協議会 十日市場駅周辺地区部会委員」（松岡美子）
- 「みどり障がい児者ネットワーク」幹事（松岡美子）
- 「緑区市民活動支援センター運営委員会」（松浦千恵）
- 「緑区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会」（松浦千恵）
- 「子育てひろば全国連絡協議会」正会員
- 「十日市場自治会」特別会員
- 「新治西部地区社会福祉協議会」会員
- 「緑区社会福祉協議会NPO等分科会」参加

<市域の活動>

- 「横浜市市民協働推進委員会」委員（松岡美子）
- 「横浜市地域子育て支援拠点ネットワーク」（松岡美子）
- 「よこはま一万人子育てフォーラム」（松岡美子）

（2）障がいのある子どもと親への支援事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか
従事者	3人
対象	緑区および近隣の未就学児及び小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	0円
事業実績	気になる子のサロン 年間14回実施・のべ81組169人（大人84人・子ども85人）参加（前年度17回実施・のべ102組219人参加） 障がい理解講座 9/14開催 参加者32人

【1年間の報告】

- ・ いっぽにて、毎月「気になる子のサロン」を実施。子どもの発達に不安や心配のある保護者同士が、肩の力を抜いて話ができる場となっている。乳幼児期から青年期までの子どもを持つ保護者が参加し、情報交換できる場ともなっている。
- ・ 「障がい理解講座」として「子どもへの対応を見直してみませんか？～応用行動分析（ABA）から学ぼう～」(講師：佐々木匡子先生)を開催した。

(3) 児童及び青少年の健全育成にかかる事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか
従事者	3人
対象	地域の中学生・高校生、福祉・子育て関連職に就く者
支出額	0円
事業実績	中学生ボランティア 27人 高校生ボランティア 3人 大学生ボランティア 7人 インターンシップ受入れ 1人 大学生実習受入れ 44人 学生ボランティアのべ活動人数 193人

【1年間の報告】

- ・ 地域の学生をボランティアとして受け入れ、乳幼児とのふれあいを通して青少年の健全育成につなげた。
- ・ 「十日市場中学校地域交流事業」に参加し、近隣にある中学校との交流を盛んにし、ボランティアや職業体験の場としての受け入れを行った。
- ・ 十日市場中学校1年生への職業講話「NPO法人グリーンママによる地域子育て支援」を行い、子育て支援の必要性の理解へとつなげた。
- ・ 看護学校「母性看護実習」を受入れ(横浜創英大学、横浜実践看護専門学校)、臨地実習を行うとともに、子育ての実際を間近で見ることで将来の自身の子育てについて考える機会を提供している。